第137回春季講演大会に寄せて

講演大会協議会　議長　岡田　康孝

1. はじめに

平成11年を迎え、春季講演大会の準備が本格的に始まった。前回は講演大会の発表動向と講演発表の構成についてお知らせしましたので、今回は講演大会に向けての準備の仕組みについて、お伝えしたい。

2. 講演大会開催に到るまでのプロセス

図1は講演大会準備のキックオフになる「講演大会協議会」から講演大会を開催するまでの大まかなプロセスを示す。

協議会では毎回、討論会等の企画の決定だけでなく、座長や会場運営委員から寄せられた意見を基に次回運営の詳細を決めている。例えば会場の混雑具合の解消やOHP設置方法の改善等の講演大会を円滑に行うために必要な項目である。なお、講演大会の会場は2年前に設定され、準備が始まる。

プログラム編成は講演大会の準備の中で最も重要な作業である。編成会議には各専門分野別部会から代表を総勢40名程度参加してもらい、半日をかけて実施する。講演数の多い部会では午前中から作業に入っている。査読は本来10項目の必要事項が記載してあればパスすることになるが、不備なものから細かいミスまで種々あり、時間が許す限り修正を要請している。最近はワープロミスが多いので注意をお願いしたい。また、講演分類はプログラム編成で重要なキーワードになるので、誤記に注意頂くとともになるべく第2分類や第3分類まで記入をお願いしたい。今後もプログラム編成では発表者がなるべく多くの人々との討論が出来るように心掛けるつもりである。

プログラム編成が終了してから、「材料とプロセス」を事前発送するまでの期間は約2ケ月である。この間に、講演予稿の原稿修正、座長・会場運営委員の承諾、「材料とプロセス」の原稿作成等多くの作業が必要で、余り余裕はない。

講演大会では、大会前日にはスタッフが集合して、配送されたOHPの設置をはじめ、各種の会場設営を行っている。

これら一連の作業は講演大会とプログラム編成会議を除くと数名の事務局スタッフで実施している。今後ともご声援をお願いしたい。

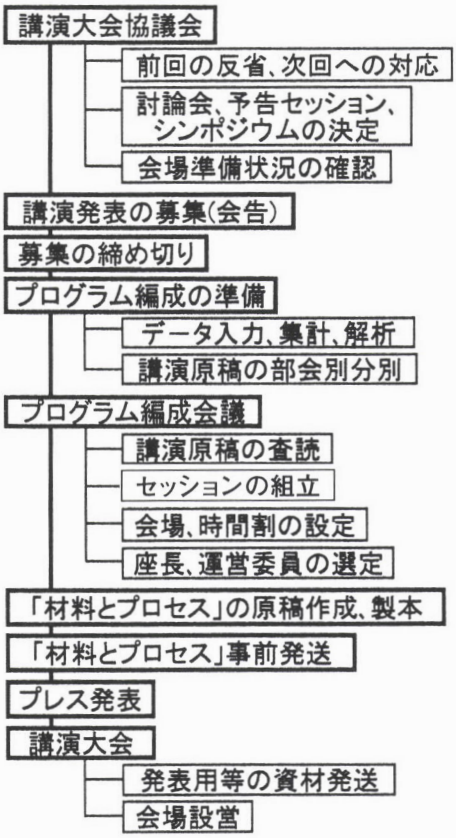

図1　講演大会の準備プロセス

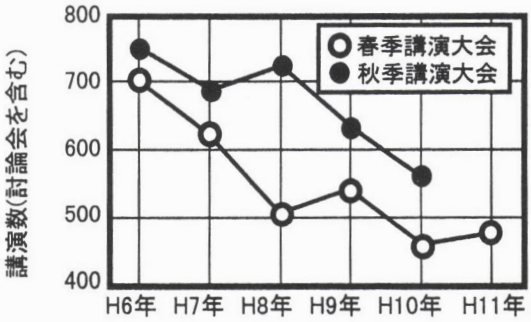

図2　最近6年間の講演発表の推移

3. 今回の春季講演大会の動向

まず、図2を見ると、講演発表については春季講演大会については、ほぼ下げ止まったと思われる。発表者をはじめ関係者の努力に厚くお礼申し上げる。なお、秋季大会も是非多数の発表をお願いしたい。

さて今回の発表のうち企画分について述べると、討論会は6件、シンポジウムは11件、予告セッションが7件ある。その他に今回は受賞講演として19件が予定されている。

1）討論会

高温プロセス部会から「材料電磁プロセッシングの新展開」、「連続鋳造への新しい電磁力の適用」、「高炉炉下部機能強化のための基礎現象」の3テーマの講演があり、電磁気応用のプロセスについては前回に引き続き、今回は最終報告が行われる。

計測・制御・システム工学部会からは「赤外光を利用した最新の計測の鉄鋼プロセスへの展開」が講演される。

材料の組織と特性部会からはこれまで大変好評であった超微細粒鋼に関するテーマとして「超微細組織創製のメタラジー」、また高炭素鋼に新たな機能を求めた「高炭素薄鋼板の組織制御と機能向上」の2件が発表される。

2）シンポジウム

社会鉄鋼工学部会から、連続テーマである「人間・社会・環境との新しい調和を求めて－IX」、創形創質工学部会から、日本鋼構造協会と合同で鋼構造として最近注目され重要なテーマである「耐震、耐火性に優れた形鋼・鋼管の製造・利用技術の現状と展望」、「鋳鍛品のコストダウン問題」、「土木における鋼・コンクリート複合構造の最新技術動向」、「不溶性電極プロセスの技術展望」の4件が発表される。

材料の組織と特性部会からは「鉄鋼及び各種金属材料の種々の環境下における材料の変形・破壊」、「材料の微細組織と磁気特性」、「マイクロマシン材料における粒界・界面の設計制御」、「構造材料の環境脆化における水素の機能に関する研究」、「再結晶・集合組織

とその組織制御への応用」、「チタン合金 その可能性と課題」の6件が講演される。これらはいずれも研究会やフォーラム、自主フォーラムの成果発表であり、最新の話題、興味の深い課題に関するものである。

3）予告セッション

社会鉄鋼工学部会から、継続テーマで人気のある「日本鉄鋼業のコア・コンピタンス」、「人材活用と教育」、「前近代鉄鋼史研究の到達点」の3件、計測・制御・システム工学部会から「制御系のチューニングとモニタリング」、材料の組織と特性部会から「フェライト系耐熱鋼の合金設計、合金開発と損傷評価」、「鉄鋼の高温酸化とスケールの諸特性」、「変態挙動と組織に及ぼす磁場の影響」の3件が予定されている。

予告セッションは講演大会の1つの目玉であり、今回も各分野とも興味あるテーマで満足して頂けると確信している。

4. おわりに

今回の講演大会から、討議をより活発にしていただけるように、セッション間の休憩時間を最大15分まで延長可能とした。これまで議論が白熱した場合、次のセッション開始の都合もあり、どうしても途中で中断せざるを得なかった。この処置で少しでも改善されれば幸いである。

また、次回の秋季講演大会から「講演大会の国際化を目指した英語セッション」、「若手技術者を対象としたセッション」を計画している。前者は多数の海外からの発表や講演大会への参加を容易にして、講演大会を国際的なものとすることを目的としている。また後者は若手技術者の発表を容易にして、切磋琢磨して頂くことを狙っている。積極的な参加をお願いするとともに、ご支援、ご意見を賜りますようお願いする。

(1999年1月25日受付)